

施設構成案(ダイヤグラム)

□施設計画の考え方(案)

教室まわり
 ・学年2クラスに対応できる教室まわりの計画とす。
 ・ただし、空き教室が生まれないうに日常的に学習スペースとして活用できるようにする。
 ・学習スペースと持ち物スペースを分ける。
 ・特別支援学級のスペースは成長段階を考慮し小中2箇所設ける。
 ・学年もしくは2学年毎に振り分けることも考えられる。

運営方式
 ・小学部の教室は普通教室、中学部の教室は教科教室とする。それぞれ別の教室はクラスのホームルームと位置付ける。
 ・中学部の教科教室は、他クラスも教科授業で利用する。
 ・教室を共有して、ホームルーム(HB)を用いる。

学校図書館
 ・児童生徒の深い学びを支える学習センターとして、充実した面積を確保する。地域住民にとつての学習センターとすることを考えられる。

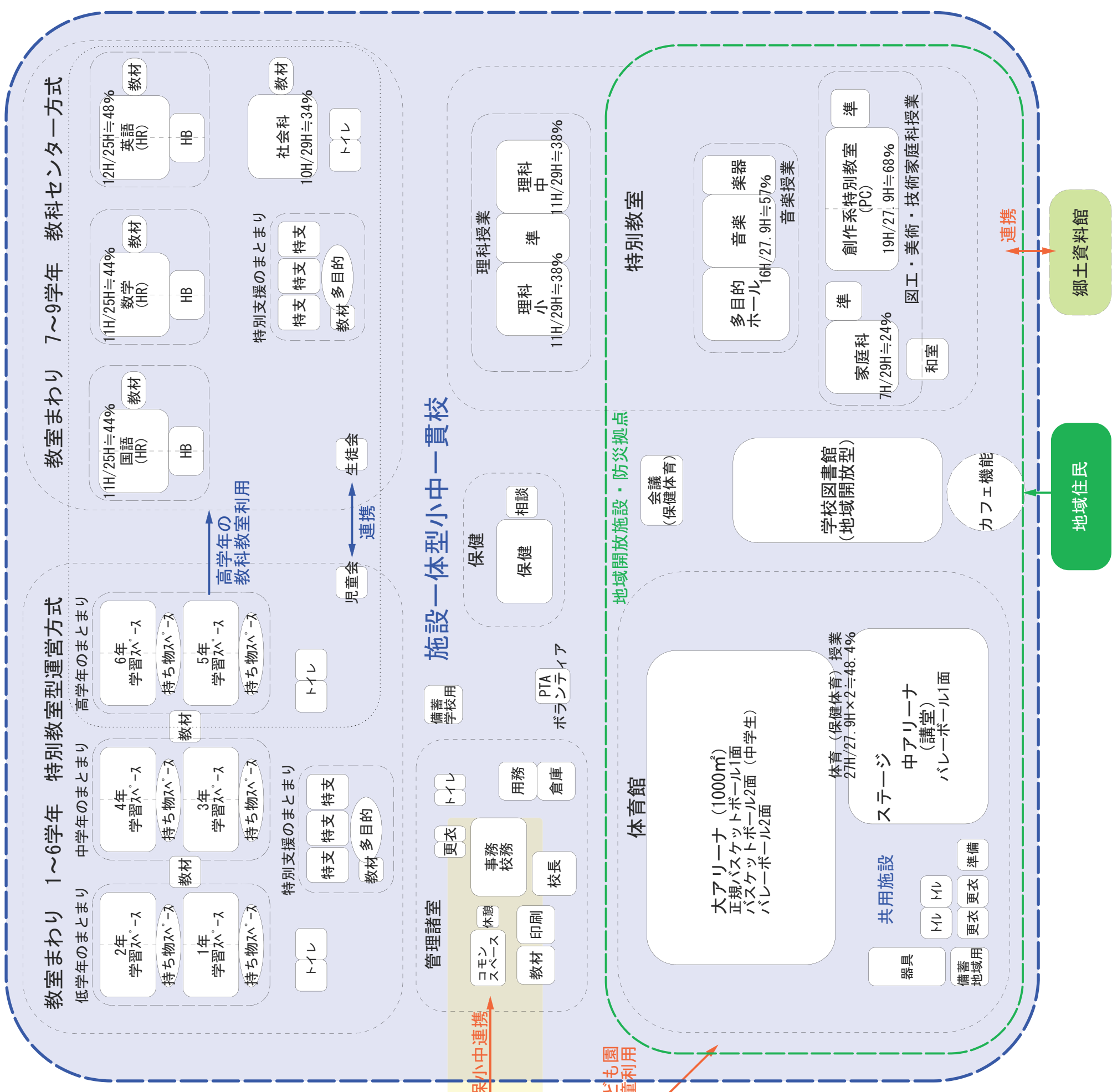
特別教室
 ・理科室は2室用意する。音楽の授業も行える多目的ホールを組み合わせる。
 ・図工、美術、技術は創作系特別教室としてまとめる。
 ・家庭科室は1室として、被服と調理がそれぞれ行えるように計画する。
 ・音楽室や家庭科室、創作系特別教室は、地域開放しやすいようにする。

カフェ機能
 ・地域住民やボランティア等の支援者が日常的に学校を訪れることができる「カフェ」スペースを用意する。

体育館
 ・2つのアリーナを確保する。
 ・一つはステージを設けて講堂機能を確保する。
 ・もう一つは充実した面積を確保し地域体育館の機能も担えるようにする。

教職員スペース
 ・教職員の事務校務スペースは小中一体とする。
 ・校務スペースとは別に、作業したり打ち合せしたりリフレッシュしたりできるコモンスペースを設ける。

保健室
 ・保健室についても小中一体とするが、内部の構成は成長段階を考慮する。
 ・特別教室と体育館は、一部を除き、小中共同とする。
 ・保健室まわりには相談室を用意する。

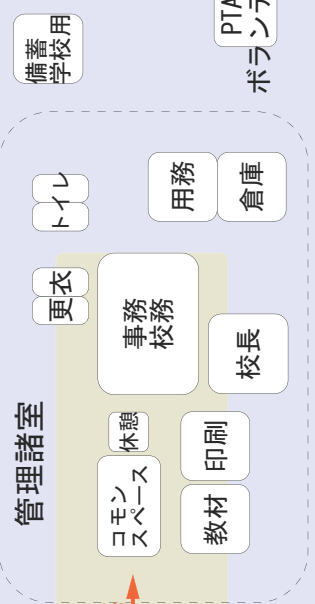
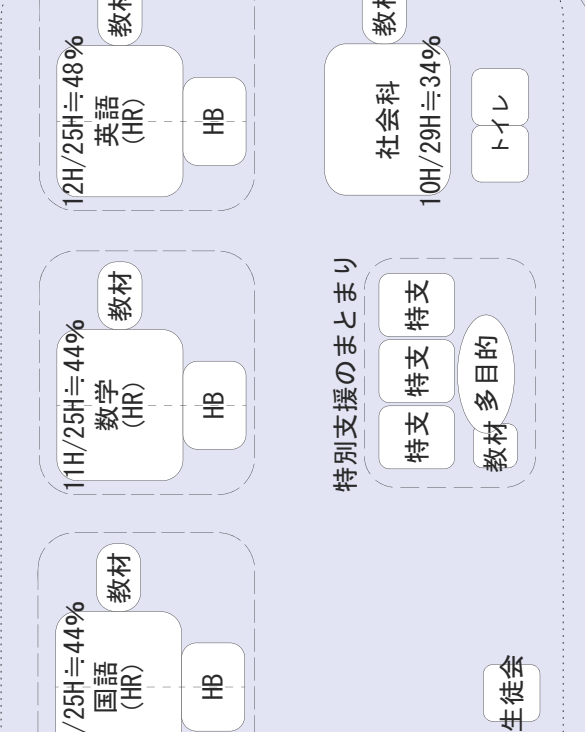


施設一体型小中一貫校

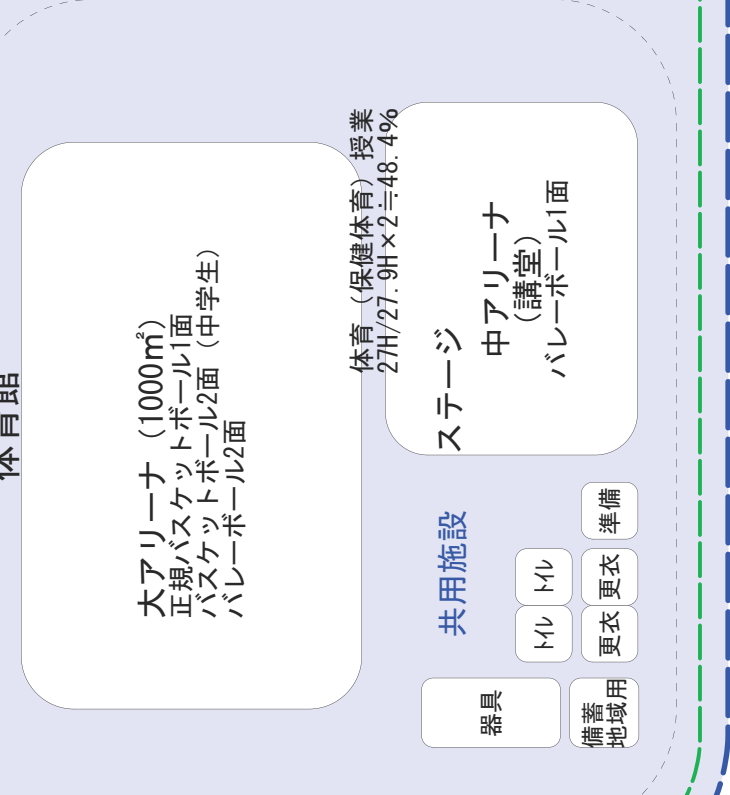
教室まわり 1～6学年 特別教室型運営方式



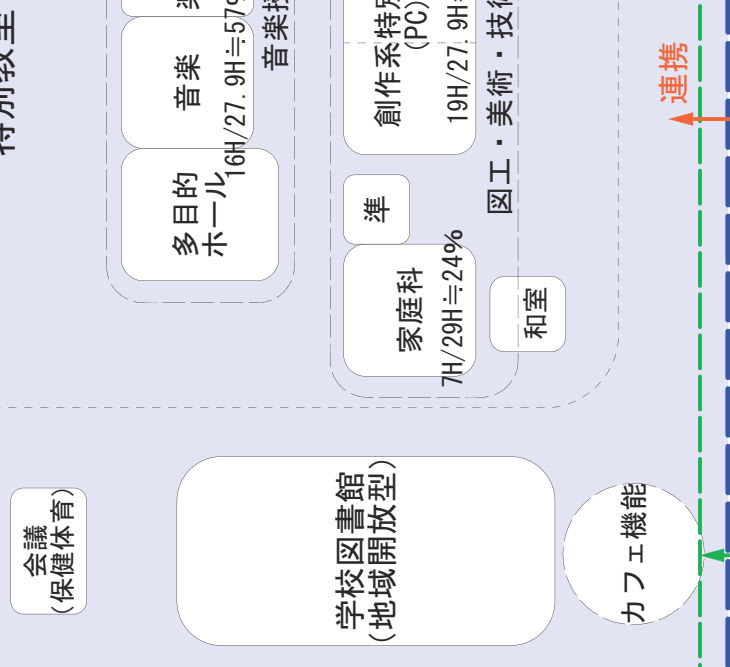
教室まわり 7～9学年 教科センター方式



体育館



特別教室



地域住民

郷土資料館

連携